

(株)プラットイーズ/スマホ・タブレット端末向けアプリ「エラベラー」

販促ツールから発展した 多チャンネル放送向け優良簡易リモコン

プロ野球シーズンが始まると、「巨人戦が見たいが、どここのチャンネルでやっているのかわからない」という相談を、多チャンネル放送契約をしている高齢者から度々受ける。もっとも単純な解決法は、以前に紹介したTorneの「Myチャンネル」機能を用いてチャンネルの選択肢をあらかじめ絞り込んでおくことだが、一人住まいの高齢者宅にPS3を配置するのはコスト的に無駄が多い上、コントローラーも使いこなせまい。何か良い方法はないものか、と頭を悩めていたところ、ふと思い出したのが(株)プラットイーズの「エラベラー」だった。

「エラベラー」とは、プラットイーズが多チャンネル放送の販促向けに開発したスマホ・タブレット端末向けのアプリケーションだ。多チャンネル放送で編成されているお勧め番組を紹介することが主な役割だが、チャンネル変更や録画予約などの動作を行う簡易リモコンとしても利用できる。

もともとはケーブルテレビ営業担当者が販促ツールとして用いるためのアプリで、各家庭への訪問営業などの際、多チャンネル放送の「中身」をわかりやすく伝えることを目指していた。現在は、その目的部分を受け継ぎつつ、多チャンネルユーザーが直接利用できる形へと移行した。

ケーブルテレビ局の視聴者が直接利用するアプリとして位置づけられた「エラベラー」に追加されたのが「簡易リモコン」としての機能、というわけだ。そしてこれが、とても使い勝手の良いUIに仕上がっている。

トップ画面は「おすすめ番組」の一覧で、多チャンネル放送サービスで放送予定(放送中のもの含む)の番組コンテンツがサムネイル一覧で表示される。コンテンツを選択すると番組詳細説明画面へと進み、多チャンネル契約者であれば、そこから録画予約、オンエア中番組であればチャンネル選択も可能となる。

単純にリモコンとして利用する場合は、トップ画面からメニュー「チャンネル紹介」を選択。すると、今度はチャンネル事業者のアイコンが表示され、それらを選ぶことでチャンネルの切り替えができる。

ありそうでなかった 「ジャンル分け」の概念

さて、このエラベラー簡易リモコン機能のUI特



「おすすめ番組」も
ジャンルごとに表示可能



チャンネルロゴを選択すると、その
ロゴが画面上部に向かって動き出す

性を劇的に高めている要因、それは「ジャンル分け」という概念だ。ユーザの立場からすると「あつて当たり前」というべきこの概念が、多チャンネル放送系事業者側から提供されるハード・ソフトにおいて反映されるケースは不思議なほど少ない。

エラベラーでは、ドラマ、スポーツ、アニメといったジャンルごとにチャンネル・コンテンツが分けられ、ジャンル選択をすることでアイコンを絞り込むことができる。例えば、チャンネル紹介→スポーツで表示した場合、JSPORTSやスカイAなどスポーツに関連したチャンネルのみが選

択肢として表示される、といった具合だ。

アイコン選択は単純なプッシュ式。当初はつかんでから投げるスロー式も検討したというが、「(スロー式は)いかにもスマート環境を思わせるものではあるものの、意外と思い通りに操作できない」(システムグループ サービス・クリエイター 上原千佳氏)とのこと。

また、チャンネルロゴをプッシュ選択した際、選択されたロゴが画面上部に向かって動くような挙動(下写真)を見せるのが地味にいい演出。これにより、手ごたえのないガラス基板を叩いても「選択した」実感が得られるほか、WiFi独特のタイムラグ(赤外線と比べた場合の)をうまく埋めて印象を持った。

機能的には、録画予約が1カ月先まで可能な点もいい。通常多チャンネル放送録画予約は1週間先までしかできないが、アプリから発した8日後以降の録画予約のデータをプラットイーズのサーバが一度預かり、7日以内になると再度エラベラーに戻して自動でSTB側にサインを送る仕組み。この辺りは、企業としての強みを発揮した部分だ。

惜しむらくはCS放送の直接受信に対応していない点であろうか。これだけの高い完成度、ぜひともスカパーにも採用を検討してほしいところだ。STBとの接続がWiFiとなるため、対応機種が限定される点も厳しいが、ここは「変換ルーターを挟むなどの対応を検討している」(上原氏)とのことだ。

「現状は『便利』どまり。もっと楽しめるアプリに上げていきたい」(上原氏)というエラベラーの次の展開は、DLNAによるエラベラー上でのコンテンツ再生やSNS連携など。多チャンネル放送普及を支えるツールとして、さらなる発展が期待できそうだ。

